



第五十二回

「負けない死に方」と

『僕は頑張るよっ』

考

え

広告欄

好きを自由に。続くを仕事に。
「生きることで、好きになる」

-人生-

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

自殺の話。

結論としては衰退するテレビの断末魔と、数字に群がるハイエナネットニュースの循環ボヤ騒ぎだと思うけどね。

まず、あの自殺の話額面通りとるなら、「死んだら負け」じゃなくて、「芸能事務所に逆らったら負け」だと俺は思う。

みんな、国民的中年男性アイドルも、国民的朝ドラ女優も、芸能事務所に逆らって絶賛連敗中じゃん。

そういう当たり前の結論にはだんまりを決め込んで、強い組織には逆らわず、扱いやすい個人の話だけを報道するのがテレビとタレントの限界だよ。

拘束されてた日本人の生還にしても、扱いやすい話題で賛否分かれるから数字目的で報道してるだけだ。テレビやマスコミにとって扱いやすく数字さえ取れば内容はどうでもいい。

人生が暇つぶしだからスポーツ観戦したり左右を信仰して叩き合ってるだけだ。「お前それただ暇つぶしに熱くなってるだけだぞ。なぜか生まれて暇つぶして死ぬのが人間だから仕方ないにしても自覚はしとけよ」って、バンクシーのシュレッターは教えてくれてるんだと俺は思うよ。

「死んだら負けだから、絶対自殺するなよ。遺書に俺らの名前を書くなよ。同級生をいじめて無期停学になった大物芸人みたいに、俺も大人になってから『悪かったな』って心の中で反省するから、今はいじめも我慢しろ。あのご意見番芸人が大人になって正義なら、俺らの学生時代のいじめも正義だよ。悪はお前みたいに自殺するヤツだ。まあ、どうせお前の人生なんて生きてても死んでも負けだけだな」

つまり少なくとも、「死んだら負け」は、「死なせるほど追い込んだら負け」とセットで意味を持つ言葉だ。片翼だけではバランスが取れずに墜落する。

さらに「死にたい」は、「生きたいように生きれない」から起こるのであって、「生きたいように生きるにはどうしたらいいか」を本人と社会が考えないと、自殺はなくなるならない。単に「死んだら負け」を言い続けるだけで、自殺を減らす根拠があるなら示すべきだ。

だいたい、テレビの中からちょっと発言するだけで自殺を止められると真剣に考えてるなら、自分のサイズを過信してる裸の王様だ。この件で騒いでるのだって社会のほんの一部だし、ごく一時的だった。

ってか、そもそも前に観たときからすごい違和感だったのが、あの番組って時事問題に対して、有りか無しか、良いか悪いか、大物一芸人にお伺いたてて善悪を裁定する私的な裁判形式なんだよ。「ありやな」「それが正しい」「俺良いこと言った」とか真顔で放送してるからね。ウマシカが信奉する無知の知、無評の評とは真逆の価値観だよ。

だから、「自殺する子供をひとりでも減らすため【死んだら負け】をオレは言い続けるよ。。。」って言葉が本当に本心なら、自殺を防止するバラエティ番組作ったり、具体的に自殺防止の活動をしたほうが効果は高い。NHKとか他の芸能人もやってるし。

しかも全然言い続けてないじゃん。あれから何回言ったよ。今までも数回しか言ってない。あともそも元いじめっ子が上から言っても説得力ない。更に全然面白くもない。

口だけの笑えない嘘つき芸人と批判されて悔しかったら、金も筋肉もあり余ってるんだし、とりあえず金と労力を出して自殺防止の具体的な活動をしろと俺は思うよ。嘘ついてギャラが欲しいだけなら別だけど。

筋トレが忙しすぎて、金と発言力はあるくせに嘘つくだけで自殺防止活動する時間は取れないのかな？

でもはじめに言った通り、テレビや芸能界は基本的に嘘つきで弱い者いじめを助長するただの集金装置だから、自分にとって本当に価値があると思うもの以外はスルーするのがウマシカでしょう。

ジュリーにしたって扱いやすい賛否ある部分を報道しただけで、扱いづらい原発や福島への思いを歌にし続けてる点には大して触れられない。

原発作業員の死を英霊として扱うこともなく、甲状腺手術した子供たちが200人を超えてもなお、というか逆に過剰だからこそ黙殺し続けるマスメディアとこの国の国民には、米から切り捨てられないように移民受け入れに前のめったり次のご主人の中に媚を売る総理をありがたがるのが関の山だ。

左右に分かれて、愛国無罪とかリベラル無罪とか立場の争いしてる間に貧富の格差はどんどん開く。

だから、自分の身は自分で守るしかない。

武士の誇りのためなら、命乞いより切腹した方が自分を守れた時代だってある。「自殺したら負け」なら「特攻したら負け」ってことにもなる。

結局、「まあ生まれてきてよかった」と思いながら死ぬのが勝ちだって、自分を納得させるしかない。

自分を守るために、考えて戦って仲間を増やして手に職を付けても、どうせ死ぬんだ。金持ちも女優も貧乏人も、どうせ同じ死だ。

まあ、どうせ死ぬんだから、今すぐ死に急ぐことはないって理屈もあるけど。せめて気持ちいいこととか、バカバカしいこととか、もう一回楽しんでから死んでもいいじゃん。せっかく生まれたからには、もう一回バカ笑いしてから死ねばいいじゃん。今辛いなら、せめて誰かに伝えてから死ねばいいじゃん。

いつでも死ぬるんだから、もうちょっと生きてもいいじゃん。

でもまあ、それも詭弁かな。死んで楽になるなら、それは仕方ないんじゃない？

だって「自殺したら負け」を説いてる層は、返す刀で「老人は安楽死しろ」「非国民は死ね」「特攻万歳」って叫んでるヘイトな国だからさ。

ただ、僕は頑張るよっ。

死にたい自分を俯瞰で文章にするような、みじめったらしく最期まで生きてやるウマシカだから簡単には死ねない。俺はとりあえずもう少し頑張ってから戦ってウマシカ死にする。

まあ今回はこんな感じ。

Uはどうかかな？



考えるウマシカ～第五十二回 「負けない死に方」と『僕は頑張るよっ』～

<http://p.booklog.jp/book/124187>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/124187>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト